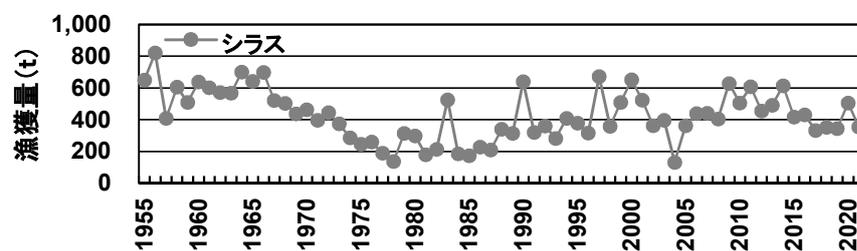
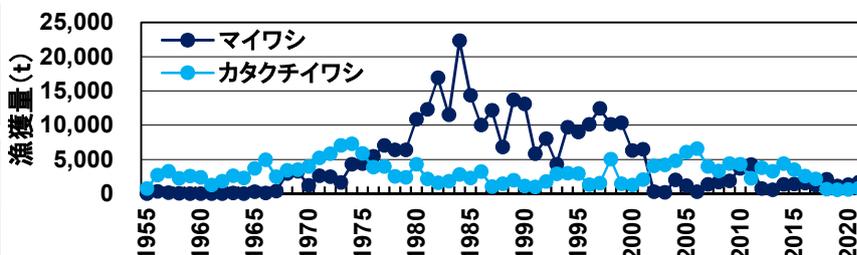


イワシ類資源の調査研究

◆ 神奈川県で漁獲されるイワシ類



▲ 神奈川県のマイワシ、カタクチイワシ(上段)、シラス(下段)の漁獲量

神奈川県の海には6種類のイワシ類※が分布していますが、そのうちマイワシ、カタクチイワシは、定置網、まき網により多く漁獲される特に重要な魚種です。

また、イワシ類の仔魚であるシラス(主にカタクチイワシ仔魚)も、相模湾で船びき網などによって漁獲されており、「湘南しらす」としてかながわブランドに認定されています。

※マイワシ、ウルメイワシ、キビナゴ、コノシロ、サツパ、カタクチイワシ

◆ 当所で行っている調査内容

当所では、県内各地のイワシ類(マイワシ、カタクチイワシ、シラス)の漁獲状況を把握するため、主要漁港の漁獲量を取りまとめている他、水揚げされたイワシ類の魚体測定を行い、魚体サイズや成熟状況などについても調査しています。

さらに本県周辺海域の浮魚類(イワシ、アジ、サバ等)の産卵状況を把握するため、調査船「江の島丸」により、プランクトンネットを用いて卵・稚仔の採集をおこなっています。

◆ 漁況予報の発行

■ マイワシ

来遊量：低水準であった前年並。

(説明) マイワシ太平洋系群の資源量は、2010年に増増加しており、太平洋側各地で漁獲量が増加傾向にあります。

本県沿岸域では、4～6月にかけてヒラゴ～小羽サイズの0歳魚を主体に来遊がみられ、主要定置網では平年(過去5年平均)の2.4倍の漁獲がありました。

2022年8月～12月は、近年の傾向からヒラゴ～小羽サイズの0歳魚が漁獲の主体となるでしょう。本県沿岸域の下半期の0歳魚の漁獲量は、相模湾の春シラス漁におけるマシラス漁獲量と関係が認められます。今年のマシラス漁獲量は前年同様低水準であったことから、今漁期の漁獲量は低水準であった前年並と考えられます。



調査により得られた各種データや近隣海域の漁獲状況などをもとに、マイワシ、カタクチイワシ、シラスの漁況を予測し、国や漁業者に情報提供を行っています。

【担当】水産技術センター
企画研究部資源管理課
技師 加藤大棋

▲ 水産技術センターHPで公開している長期漁海況予報【第108号】より抜粋